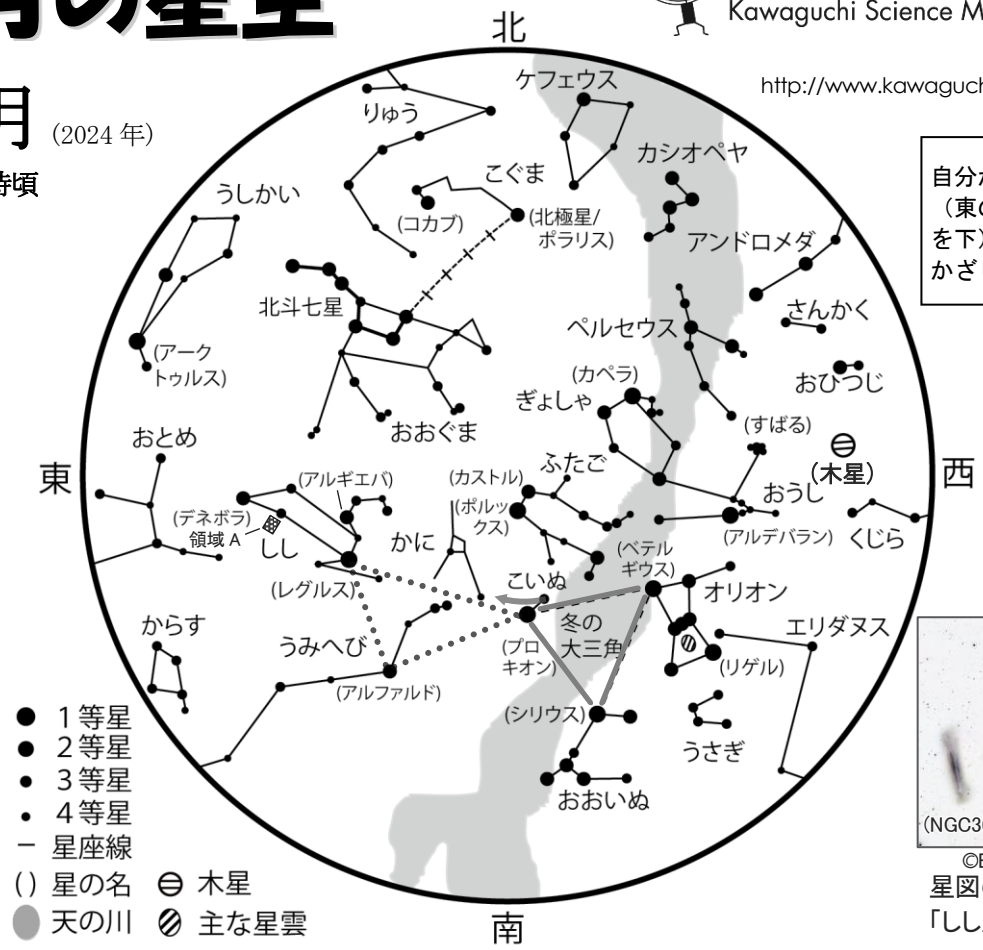
今月の星空

川口市立科学館
Kawaguchi Science Museum
tel 048(262)8431
http://www.kawaguchi.science.museum/

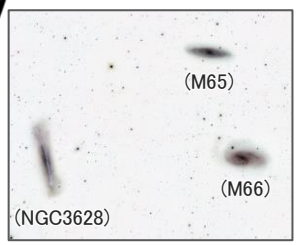
3 月 (2024 年)

中旬 20 時頃



星図の見方

自分が見ている方角を下（東の空を見るときは東を下）にして、頭の上にかざして見ます。



©ESO/INAF-VST/OmegaCAM

星図の領域 A にある「しし座の三つ子銀河」

月　　齢　◑ 下弦 4 日、● 新月 10 日、◐ 上弦 17 日、○ 満月 25 日

惑星情報

水星 日の入り後 西（うお座 −1→1 等）※下旬のみ　木星 夜のはじめ頃 西（おひつじ座 −2 等）

☆西の空に見える木星と月

20 日は、太陽が真東から昇り真西に沈む「春分」です。昼夜の長さが等しくなる頃で、月末ともなれば日の入りが 18 時を過ぎ、日の長さとともに春を感じられそうです。宵の空では、西の低空ではありますが、−2 等の木星がまだ目立つ存在です。木星は、5 月中旬の「合（ごう）（太陽と同方向に位置する）」に向かって日を追うごとに高度が下がり、4 月末には観測が難しくなります。3 月 13 日・14 日は、そんな木星の近くに、月齢 3.0（13 日）・4.0（14 日）の細い月がやってきます※。黄昏（たそがれ）の空に浮かぶ細い月と木星の美しい共演が木星の観望シーズンのフィナーレを飾ります。

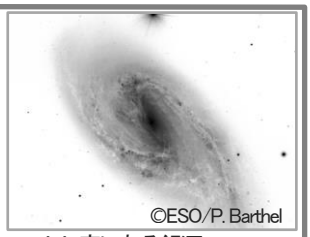
※同様に 4 月 10 日・11 日は、それぞれ月齢 1.7・2.7（三日月）の細い月が近づいて見えます。

☆冬の星座から春の星座へ

しし座やうみへび座、おおぐま座など、春の星座が東側の空に昇ってきました。星図のとおり、春の星座は西側にある冬の星座に比べると明るい星は少なめです。この時期は、冬の大三角を頼りに春の星座をたどりましょう。冬の大三角の「ベテルギウス（0.5 等）」から「プロキオン（0.4 等）」へとつないだ線を東に延長すると、しし座の「レグルス（1.4 等）」が見つかります。プロキオンとレグルス、そして、その 2 つの星の中ほど、やや下にあるうみへび座の「アルファルド（2.0 等）」をつなぐと直角三角形（三角定規の長い方…星図の点線）に近い形となり、目印となります。

コラム～春の夜空に潜む銀河たち

春の星座付近には、たくさんの「銀河」が観測されています。広大な宇宙では、天体が放つ光が地球に届くまでに時間がかかるため、私たちの見るその天体は過去の姿となります。私たちが目にする星座の星たちの多くは、距離が数十から数百光年程度であるのに対して、銀河はケタ違いに遠く、例えば、しし座にある銀河 M66（星図の領域 A の位置）は約 3,500 万年前の姿を見ていることになります。



©ESO/P. Barthel

しし座にある銀河 M 66